

○人件費は右肩上がり？

さいたま市の「新市建設計画・第8章 財政計画」を見て、おやっと思うのが、人件費の項目です。

区分	平成 13 年度	平成 14 年度	平成 15 年度	平成 16 年度	平成 17 年度
人件費	68,892	69,311	72,130	72,225	73,872

(単位:百万円)

着実な右肩上がりで、5年で約50億円もの伸びが計画されています。しかし、一方でさいたま市の「行政改革大綱」では、同じ5年間の計画の中で、職員の人数を10%縮減し1060人減らすこと、また職員人件費の抑制を目指しています。この矛盾について、市に問い合わせたところ、この50億円の人件費の伸びは、増員を想定したものではなく、現行の職員数で推移した場合の定期昇給と予定退職者の退職金を見込んだ予算との回答でした。これだけ民間の経済が苦しい中、市は借金を増やすという対応だけで「これまで通りの昇給ペースだと当然人件費は右肩上がりなのです」と平然としていて良いのでしょうか？確かに、政令市化に伴い、区役所への人員配置など、きめ細やかなサービスの為に人を増やさなければならない部分もあるところで、人件費を圧縮するのは大変なことです。しかし、現在のさいたま市の財政状況に鑑みるなら、「行政改革大綱」を空文にせず、着実に実行しなければならないと思います。